

～水素を活用した横浜港のスマート化に取り組みます～

大黒ふ頭へ自立型水素燃料電池システムを導入します

横浜市では、昨年 12 月に改訂した横浜港港湾計画において、エネルギー利用の効率化、低炭素化、災害時における事業継続性の確保等の港のスマート化に取り組んでいくこととしました。

その取組の一環として、横浜港流通センターをモデル施設と位置付けて、自立型水素燃料電池を導入し、電力ピークカットを行うデマンドコントロール等の実証実験を行うとともに、大黒ふ頭の津波避難場所に指定されている当該施設の非常用電源等として活用します。

1 自立型水素燃料電池について

(1) 概要

このシステムは水道水を電気分解して取り出した水素を貯蔵し、必要な時に貯蔵した水素を燃料として発電します。災害時には系統電力に頼らずに自立運転し、情報収集等に必要な電力を確保します。

また、来年度以降に太陽光発電設備を設置して、CO₂フリーの発電システムとすることを検討しています。

(2) 設置予定場所

横浜港流通センター駐車場（裏面）

(3) 最大出力

約 25 kW（蓄電池併用時）

2 実証内容について

(1) 電力ピークカット

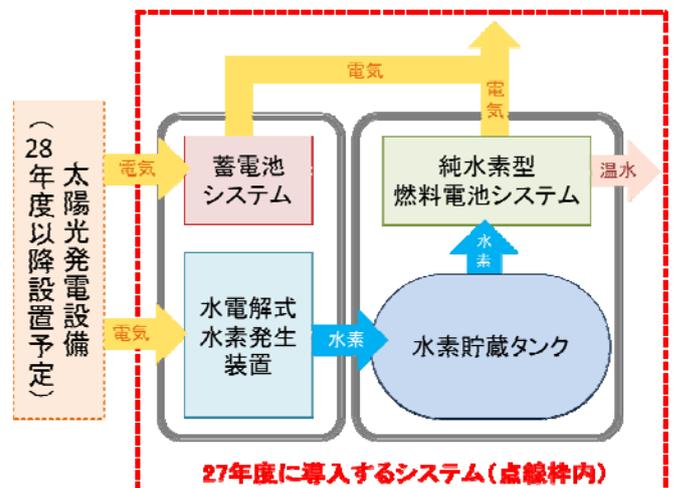
電力ピークカットを目的として、電力デマンド抑制効果や電気料金削減効果などの実証を行います。

(2) 緊急用電源

災害時の事業継続に必要な緊急用電源として自立運転する時の、燃料電池の稼働状況、貯蔵水素の使用状況、施設側の電力使用状況などについて実証を行います。

3 スケジュール

27 年度中に設置し、28 年度から実証実験を開始します。

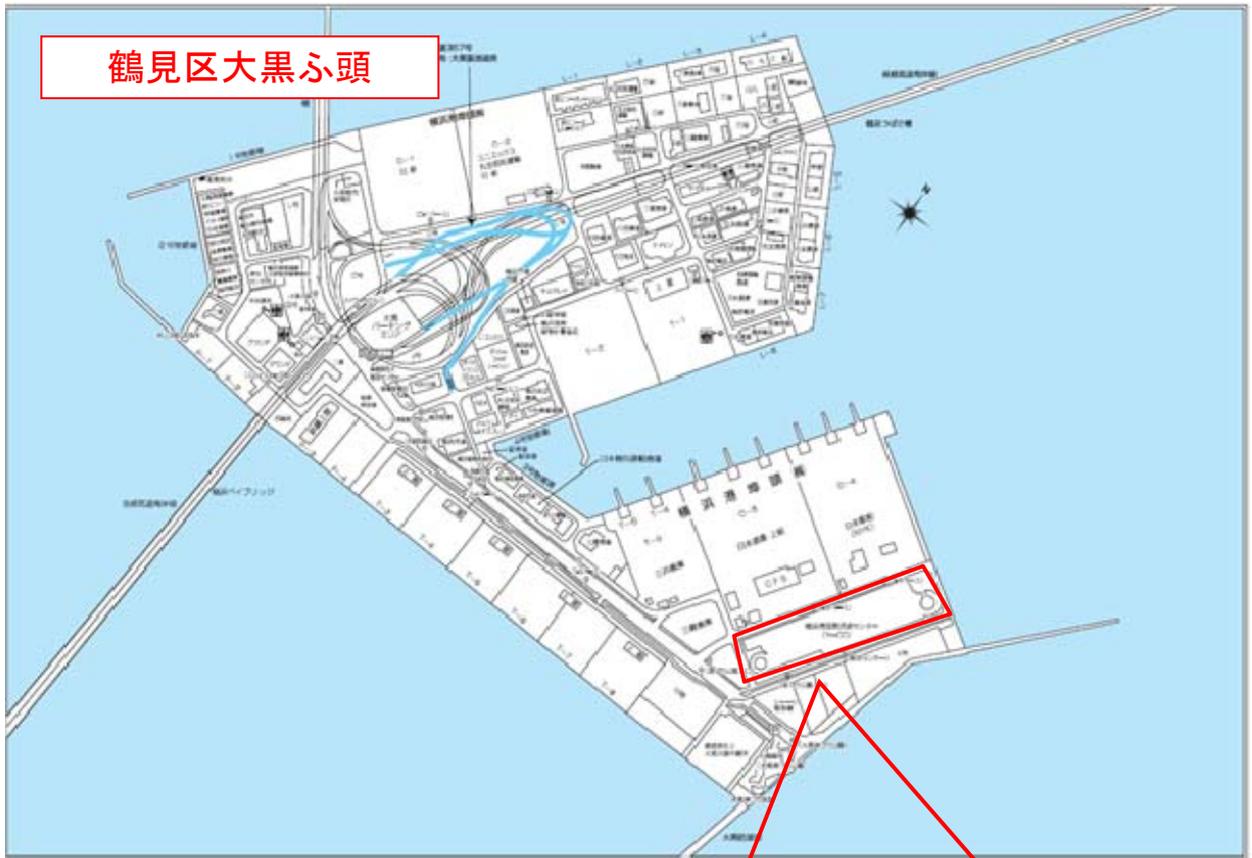


お問い合わせ先

港湾局企画調整課事業推進担当課長 林 総 Tel 045-671-2885

(裏面あり)

■設置予定場所



○横浜港流通センター（鶴見区大黒ふ頭 22 番地）

